



# JIC インフォメーション

第 177 号 2013 年 11 月 10 日  
年 4 回 1・4・7・11 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 2-13 ワキタ天満橋ビル 812 号 TEL: 06-6944-2341



## ロシア・旧ソ連 国際交流誌



旅行・留学のお問い合わせはいつでもお気軽にJICへどうぞ!  
<http://www.jic-web.co.jp>

— 「悪魔の飽食」コンサート ロシア公演 —

「悪魔の飽食」コンサート・ロシア公演・・・2P  
230 人の合唱団による平和の歌声  
日ロ協会岩手県支部のロシア訪問団・・・6P  
ジーマの「まちを歩けば」・・・7P  
タリンのテレビ塔／タリン植物園

私たちのロシア／林檎〜ペテルブルグ、そして未来へ  
上斗米正子（言語交流研究所・ヒップファミリークラブ）8P  
モスク通信 スパスカヤ塔フェスティバル・・・12P  
＜連載＞ キーロフ十字架行進（その 5）  
伏田昌義・・・13P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。  
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

## 「悪魔の飽食」コンサート・ロシア公演

# 230 人の大合唱団による 「平和と希望の歌」

何故、あなたは止めたのか  
人であることを止めたのか  
生きながら殺されしマルタよ  
哀れ生きながら解剖されし少年よ、哀れ  
……

総勢 230 名の重く強い歌声がモスクワ音楽院コンサートホールに響き渡った。日本語の歌声に重ねて、ロシア語訳された歌詞が舞台上部に映写される。混声合唱組曲「悪魔の飽食」がロシアで初めて上演された瞬間だ。

7 月 21 日、モスクワ音楽院大ホールはほぼ満席(約 1500 人)の聴衆で埋められた。人々は、はるか遠く日本からやってきた大合唱団の歌声に耳を傾け、和太鼓の勇壮な演奏



### 満席のコンサートホール(モスクワ)

に酔い、そして組曲「悪魔の飽食」の強烈なメッセージに心を打たれた。合唱団の演奏が終わるや否や、ホールを埋めたロシアの観客は、ただちにスタンディングオベーションでこたえた。鳴り止まぬ拍手の渦がホールを駆けめぐった。コンサート終演後、帰途につく観客を日本側合唱団員がホール出口で握手しながら見送る。興奮した面持ちのロシア人と日本人の交歓の輪があちこちで広がった。

### 総勢 244 名の大旅行団

ロシア文化フェスティバル日本組織委員会の長塚英雄さんから「悪魔の飽食」全国縦断コンサートのプロデューサー・持永伯子さんを紹介されたのは昨年 1 月のこと。「来年



モスクワ音楽院大ホール(右端は司会者のガリーナさん)

(2013 年)夏にモスクワとペテルブルグでロシア公演をやりた。会場探しと旅行手配を手伝ってほしい」という依頼を受けた。2 回の下見の結果、モスクワ音楽院大ホール(客席 1750 名)とペテルブルグのカペラホール(同 770 名)で 7 月 21 日と 23 日にコンサートを開くことが決まった。参加者はまたたくまに 200 名を突破して総勢 244 名の大旅行団が編成された。

これだけの人数になると、モスクワまでの航空機も一機だけではとても座席確保ができない。ロシア航空、大韓航空、中国国際航空と交渉して 3 つのルートで飛ぶことになった。さらにモスクワ-ペテルブルグ間は 6 便に分かれての移動となった。航空機、ホテル、レストランの予約などに加えて、コンサート前の練習場確保や観光日程の調整など、担当者は旅行の手配業務に忙殺された。

こうして旅行の準備は着々と進んだのだが、しかし、モスクワ現地でのコンサートの準備がなかなか進まない。ロシアのコンサート・シーズンは冬だ。シーズンオフの夏に、しかも市民の多くが郊外のダーチャ(別荘)に出かけている週末に開かれるコンサートに 1700 名もの観客を集めることが果たしてできるのか、……。

モスクワ音楽院大ホールもカペラホールも、ともにロシアだけでなく世界屈指の音楽ホール。そこで上演される日本人合唱団のコンサートは、果たして耳の肥えたロシアの聴衆の評価に耐えることができるだろうか、……。

組曲「悪魔の飽食」は、第二次世界大戦での日本の戦争犯罪を自ら抉り出し、過去の歴史と真摯に向き合い未来の平和を訴えるもの。このメッセージは度々戦火に見舞われ、甚大な戦争被害を受けたロシアの人々にも正しく伝わるだろうか、……。心配の種は尽きない。

紆余曲折を経て、単なる旅行手配にとどまらず、コンサート会場の契約と会場設営、モスクワでの記者会見、チラシ、ポスター、パンフレットなど宣伝物の作成、そして観客動員とチケット配布まで、コンサートのすべての準備に JIC も全面的に関与することになり、コンサート当日を迎えることになった。



## 日本人はロシアに勇気・誇り・良心をもってきてくれた

コンサートは、(1)日本の歌(さくらさくら、ふるさと、大地讃頌)、(2)和太鼓の演奏、(3)混声合唱組曲「悪魔の飽食」(ロシア語名は Покаяние = 懺悔とされた)の三部構成で、合間に原作者である森村誠一氏と作曲者であり指揮者である池辺晋一郎氏のスピーチがはさまれた。

果たして、コンサートはモスクワでもペテルブルグでもほぼ満席の聴衆を集め、大成功を収めた。ラシースカヤガゼータ(Российская газета)やイズベスチヤ(Известия)などの新聞、またテレビ、ラジオ、雑誌、インターネットでたくさんの報道がなされ、いずれも高い評価が与えられた。

以下は、コンサートを聞いたロシア人参加者から届いたメールの一部である。



終演後、ホールで交歓する団員と観客

「家族と一緒にコンサートに行きました。テーマの深刻さ、素晴らしい歌声、合唱団の皆さんのこの上ない真面目な取り組みに深く感動しました。池辺晋一郎さんと森村誠一さんのスピーチは心の奥に刻まれました。民謡と和太鼓のパートは非常に分かりやすく言葉を解さなくてもすんなり理解できました。カンタータ『懺悔』(悪魔の飽食)を聞いた後、多くの観客が涙ぐんでいました。心を動かされなかった人は一人もいなかったと思います。感謝のしるしに、我が家のベランダで咲いた花の写真を送ります。コンサートの後、家に戻ったら、花卉が雨のしずくで濡れていました。まるで私たちがコンサート中に流した涙のようでした。」(ペテルブルグ／エカテリーナ・S)

「カンタータ『懺悔』に深く感動し、このような素敵な歌声の方々が自費でロシアに来られたことに感激しました。私は一所懸命に涙をこらえようとしたのですが、最後に犠牲者の子供を目の当たりにした瞬間、涙がとまらなくなりました。和太鼓のコンサートもすごかったです。合唱団員の皆さんが観客を見送ってくださったことも大変印象的でした。お互いに握手出来たことがとてもよかったです。花束を持ってこなかったことを悔みました。」(モスクワ／アナスタシア・B)

「表現された思いはまさにプライスレス。その深さは透き通るほど綺麗。すべての日本人に、ロシアに勇気・誇り・良心



を持ってきてくれて、私たちにわけ与えてくれたことを感謝したいと思います。勇気と良心はすべての人を結びつけます。いつかまた皆さんにロシアで会える日を楽しみにしています。」(ペテルブルグ／ゲンナジー・P)

## ピスカリョフ墓地で鎮魂のアカペラ合唱

ここでこのコンサート旅行の概要を記しておくと、参加者の総数は 244 名。「悪魔の飽食」の著者である森村誠一氏(作家)、コンサートの指揮をとる池辺晋一郎氏(作曲家)と浅井敬壹氏(全日本合唱連盟理事長)をはじめ、北は北海道から南は九州まで全国各地から参加者が集まった。一行は、7 月 19 日に、札幌、成田、関空、福岡から 5 つのグループに分かれて飛び立ち、同日モスクワに到着した。21 日にモスクワ公演、翌日ペテルブルグに移動、23 日にペテルブルグでもコンサートの舞台に立ち、25 日に現地を出発して 26 日に帰国した。この間、一行はコンサートの合間にはモスクワとペテルブルグの観光も大いに楽しんだ。赤の広場やエルミタージュ美術館を訪れて、夏のロシアを堪能した。同時に、モスクワではクレムリン横のアレクサンドロフスキー公園で無名戦士の墓に献花し、ペテルブルグでも第二次大戦中 900 日におよぶ封鎖で犠牲になった数十万市民が眠るピスカリョフ墓地で献花、「悪魔の飽食」の一節をアカペラで歌ってささげた。

また、コンサートに先だって、池辺氏ら代表グループ(8 名)が 2 日早くモスクワに入り、中央ジャーナリスト会館で 7 月 18 日に記者会見を行った。記者会見には 17 社約 30 名の記者たちが集まり、ロシアでの注目度の高さを伺わせた。池辺氏と森村氏にはテレビや新聞のインタビュー申込みが殺到し、コンサート当日も多くの記者やカメラマンが取材にやってきた。

「私たちはともすれば戦争の被害だけを強調しがちだが、戦争でひどい目に遭わされたことだけでなく、戦争で人をひどい目に遭わせたこと、加害の史実をもきちんと知らなければならぬ。二度と同じことを起こさないように加害と被害の経験を継承し続けなければならない。組曲「悪魔の飽食」を私たちがもう歌わなくてもよいような平和な世界を実現することが、このコンサート活動の目的だ」と語った池辺晋一郎氏の言葉が印象的だった。

## 日本の戦争責任を問いかける「悪魔の飽食」

「悪魔の飽食」は、作家・森村誠一氏によって 1981 年から 82 年にかけて新聞連載され、単行本として出版された。中国大陆を侵略した日本軍のおぞましい戦争犯罪を鋭く告発する書物である。本書によって、関東軍 731 部隊(部隊長・石井四郎軍医中將)が、中国東北地方(満州)で行った細菌・生物兵器の開発と残虐な人体実験、実戦テストの実態が詳細に暴露され、一大センセーションが巻き起こされた。

731 部隊は、1936 年から 1945 年まで、中国・ハルビン市郊外において、毒ガス爆弾やペスト、コレラ、チフス、炭疽(たんそ)菌など、各種の細菌兵器の研究・製造を行った秘密部隊で、それを実使用するための媒体として「ノミ」や「ネズミ」などの飼育もしていた。これらの毒ガス、細菌兵器の研究開発のために、中国人や朝鮮人、モンゴル人、ロシア人を生体実験の対象とした。正確な数は不明だが、約 3000 人が犠牲になったと言われている。中国各地には、現在もなお旧日本軍が放置した化学兵器が大量に残されており、日中両政府の手で解体処理作業が続けられている。

731 部隊の存在とその犯罪的所業は、第二次大戦の直後から人々の噂話として広く伝えられていたが、その詳細な実態は必ずしも明らかにされていなかった



観客のサイン攻めに応える森村氏

た(日本の戦争指導者が断罪された東京裁判では、アメリカ軍が資料提供と引き換えに 731 関係者を免責したと言われる)。ベストセラー作家の手になる本書によって、731 部隊の存在とその忌まわしい戦争犯罪が広く人々に認識されることになった。

## 1995 年から始まった全国縦断コンサート

「二度とこのような戦争犯罪に手を染めてはならない」「歴史を語り継ぐことで確かな平和を築こう」という声の高まりを背景として、混声合唱組曲「悪魔の飽食」が神戸市役所センター合唱団の提案で 1984 年に作られた。その後、この組曲は各地の合唱団によって歌い継がれていたが、日本の敗戦 50 周年を記念して 1995 年から日本縦断コンサートが開始された。現在まで、日本国内 24 カ所でコンサートが開かれている。このコンサート活動を中心になって組織してきたのがプロデューサーの持永伯子さんだ。合唱団は、これまでこの曲を歌ってきたグループを中心に、コンサートのたびに日本全国から団員を募って編成されており、常時、150 名

から 300 名のメンバーが参加している。団員の年齢層は 20 歳代～70 歳代と幅広い。



海外でも、中国(ハルビン、瀋陽、北京、南京)、韓国(ソウル、青洲)、欧州(チェコ、ポーランド)で公演が行われた。ロシア(旧ソ連)は、第二次世界大戦で他のどの国よりも多い 2000 万人の戦争犠牲者を出した国だ。731 部隊の犠牲者にはロシア人も含まれている。それだけに

ロシア公演は、森村氏や池辺氏にとっても、またコンサート活動を推進してきた持永さんや多くの合唱団員の方々にとっても、是非実現したい夢のステージだったのだ。

今回のモスクワとペテルブルグでのロシア公演の成功は、「悪魔の飽食」全国縦断コンサートの歴史に新たなページを書き加えた。

## 多くの方々の献身と協力で実現したコンサート

今回のコンサート旅行の成功は、もちろん森村誠一氏が追求したテーマの普遍性と崇高さ、池辺晋一郎氏をはじめとする合唱団の音楽的レベルの高さ、和太鼓を組み合わせたことによる日本文化への関心の喚起などに裏打ちされたものであるが、同時に、関係した多くの方々の献身的な努力と協力によってもたらされたものでもある。以下、特に記して、感謝と「ご苦労様でした」の気持ちを述べておきたい。

### 「パワーおばさん」、持永さんの底力

この人がいなければ「悪魔の飽食」ロシア公演はそもそも成り立たなかった。1995 年以来、東京、京都、沖縄、北海道など全国各地で縦断コンサートを行い、海外でも中国、ポーランド、チェコ、韓国で計 9 回のコンサートを実現してきた。日本各地のコラスグループをつなぎ、常時、150 名から 300 名の大合唱団を編成している(これまで最大のメンバー数は 2011 年の佐賀公演。その数なんと 434 名！)。今回も当初は 120 名から 150 名と聞いていたが、持永さんから連絡が入る度に参加者数が増え続け、最終的に 244 名の大グループが出来上がった(実際の合唱メンバーは約 230 名、これに十数名の同行者が加わった)。

大きな声でズバズバと言いたいことを言うけれど、一生懸命の熱い思いが伝わってくるので憎めない。いつの間にか周りの人を「持永応援団」にしてしまう不思議なパワーの持ち主だ。持永さんの勢いに呑み込まれて、JIC もついつい深入りしてしまったというのが本当のところ、この人が成功の第一人者であることは間違いない。





### ロシア文化人に深い人脈を持つ通訳者・児島宏子さん

モスクワでの記者会見には、世界的に有名なアニメーション作家ユリー・ノルシュテイン氏が同席し、またペテルブルグ公演は、「太陽」「ファウスト」などの作品で知られる映画監督アレクサンドル・ソクーロフ氏が演出に全面協力してくれた。ロシアの著名な文化人が賛意を示し協力してくれたことが、今回のロシアでのコンサートを成功に導く大きな要因になった。彼らにコンサートの趣旨を説明し、持永さんに引きあわせ、協力をとりつけてきたのはロシア語通訳者の児島宏子さんだ。ロシアの文化人に深い人脈をもつ児島宏子さんの功績も大きい。

### モスクワの「助っ人」、ジーマ君とそのチーム

モスクワで実際にコンサート準備にあたったのは、JIC モスクワ事務所の元スタッフ、ドミトリー・トカチェンコ君(タリン大学大学院生)とそのチームだった。チームには、わがモスクワ事務所のイリーナさん、オリガさん、ペテルブルグ連絡員の奥田美千代さん、荒川好子さん、そしてジーマ君の家族や多くの友人たちが含まれている。モスクワ音楽院、カペラホールとの連絡調整にあたり、記者会見の準備を行い、Facebook 上にサイトを開いてコンサートの宣伝と観客集めに尽力した。合唱団の滞在中は通訳ガイドとして同行し、コンサート本番でもチケットの受け渡しや裏方として奔走し

た。

現地で手足となって動いてくれる実働部隊なしに、コンサートの企画実行のような複雑で特別な作業をスムーズに進めることはできない。献身的な「ジーマ・チーム」の面々なくして、今回の成功はおぼつかなかった。

### インターネット社会の驚異的な宣伝効果

Facebook をはじめとするインターネット情報は観客動員に絶大な効果を発揮した。「悪魔の飽食」コンサートの情報はもっぱらインターネットとロコミで広がり、短期間で観客を集める原動力となった。

ロシア日本協会(モスクワ)のクルチーナ事務局長は、コンサート情報を協会の WEB サイトに載せ、数千名の会員や知人友人たちに情報を流してくれた。ロシア連邦対外交渉庁・駐日代表のビノグラードフ氏は、交流庁の持つ複数のサイトに詳しい情報を掲載してくれた。JIC の取引先旅行社やロシアの友人たちもロコミ宣伝に一役買ってくれた。

これらすべての要因が複合し、相互に影響し合って、大きな成果を生み出したと言える。

JIC としても、今回の「悪魔の飽食」コンサートのロシア公演に協力させていただき、得難い経験をたくさんさせていただいたことを、深く感謝している。

(2013 年 9 月 30 日／伏田昌義)

# 27年ぶりのモスクワ・サンクトペテルブルグ

日ロ協会岩手県支部副会長・下川原弘志

日ロ協会岩手県支部では7月中旬に「ロシア旅行団」を派遣しました。一行は23人で、ほとんどがロシア旅行初めての人達でした。今回は私が団長を務めまし



たが、私自身はモスクワとサンクトに27年ぶりの訪問でした。ソ連邦崩壊政変後のモスクワは、ソ連時代の印象が強い私にとっても、まるで初めて訪れる国のようでした。

車の渋滞(北京ほどひどい排ガスの臭いではないが)、商業広告・看板の氾濫、海外からの旅行者の多さ(空港での人ごみ)、町でたまたま出逢ったデモ隊などが印象的でした。これを見るとロシアも「資本主義社会になったのか」と改めて思った次第です。

旅行者に対するサービスや接客態度などでも大きな変化を感じました。それぞれの店によって違いはあるが、それでも「競争社会の中で生き抜いていかなければならない」という雰囲気が伝わりました(“資本主義新興国”でまだまだ「ぎこちなさ」はありますが)。

\* \* \*

モスクワ市内を走っている車を見ると、公共交通のバスと乗用車がとても多く、トラックや貨物車の数はあまり多くありません。これを見て感じたことは、「物流」が少ないのでは、すなわち「生産活動」がまだまだ少ないのではないかという事でした。

もしそうだとしたら、それは市民生活にも大きく関係してきます。生産活動がもっと活発になれば、若者や学生たちの就業(就職)がより伸びて社会の景気を上昇させる事につながるでしょう。私の見方や感じ方が間違っていればいいのですが、中国などと比べると少し経済活動が弱いのではないかと思います。短期間の訪問では分からない事の方が多いのですが、モスクワを見ての私の感想です。資本主義に移行してまだ20年ほどで、ロシアはまだまだ発展を遂げるでしょうから、それに期待したいと思います。

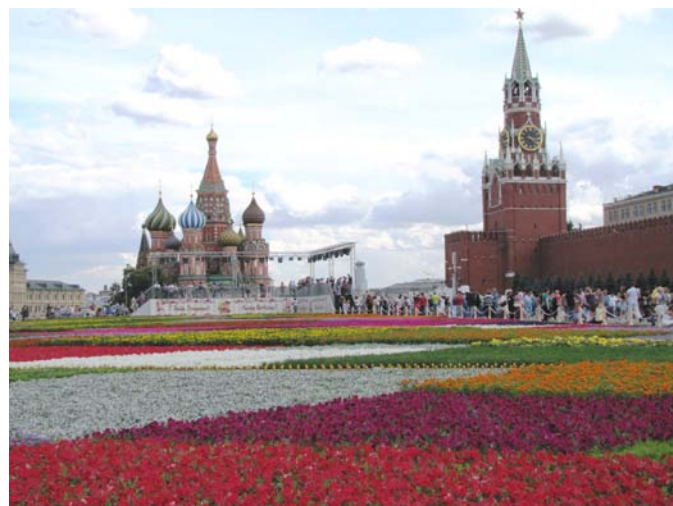
モスクワの「赤の広場」は、昔はメーデー(5月1日)の大行進や革命記念日(11月7日)の軍事パレードで有名でしたが、今回訪れたときには何とレーニン廟の前一面に花が咲きみだれていました。これは驚きでした。この花畑は「 Gum百貨店」の百周年イベントだったようで、その後テレビニュースに写し出される赤の広場は通常の姿にもどっていました。

ロシアへはソ連邦時代も含め今回で7回目ですが、ロシアの芸術文化はすばらしい。今回もオペラやバレエを堪能しました。エルミタージュ美術館やトレチャコフ美術館は、何回訪れてもいつも新鮮で「目が洗われる」ようでした。「ハラショー!」以外の言葉は見当たりません。

\* \* \*

日本とロシアは一衣帯水の隣国で、今後ともお互い理解しあい、もっともっと緊密にならなければならないと思います。

昨年5月に「資源・エネルギーの豊富」な極東沿海州の中



赤の広場に出現したお花畑 (撮影、下川原さん)

心都市であるウラジオストック市を視察して感じたのですが、ロシアでは大学教育の改革をして、海外から多くの留学生等を受け入れています。将来のある若い人たちに、ロシアへの留学を推奨したいと思っています。留学して日本へ帰国する頃は、日ロの交流に貢献する人間として「一回りも二回りも」大きくなってほしいです(放流した鮭の稚魚が成長して日本の川に戻って来るように)。これからの「日本とロシアの経済」がそのような人材を多く求めている事は確実です。27年前と比較して、政治的にも経済的にも“距離”が縮まってきた事を実感した旅でした。

最後に、今回の旅行ではJICの皆さんにお世話になりましたが、参加者に何の不安も与えないきめ細やかなアドバイスと準備をして頂きました。モスクワとペテルブルグの現地スタッフも優れた人を配置していて、非常に感謝しています。



## 《ジーマの町を歩けば》

ドミトリー・トカチェンコ (タリン大学・院生)

### タリン・テレビ塔 (Tallinna Teletorn)

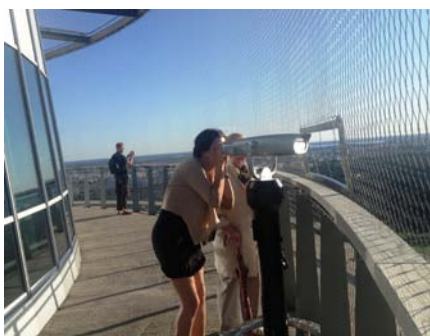
今回は、タリン・テレビ塔についてのお話です。

テレビ塔は、タリンの東方、ピリタ川近くのクロストリメツァ (Kloostri metsa) という地区に位置しています。クロストリメツァは「修道院の森」と言って、歴史的に聖ビルギッタ修道院の周りにある森の意味でした。

タリン・テレビ塔は 1975～80 年に建設されました。1980 年のモスクワオリンピックのセーリング競技はタリンのピリタ区 (ピリタ川の河口・タリン湾のオリンピック・センター) で行われ、その近くにテレビ塔を建設することが決定されました。

#### 遠くヘルシンキの灯火も見える

高さ 314m のテレビ塔は、北欧最大のテレビ塔であり、世界の 31 位のテレビ塔です (それでも、バルト三国のリガとビリニュスのテレビ塔よりはちょっと低いです)。170m の



高さのところに展望台があります。フィンランド湾、ピリタ川、ムウガ港を見下ろし、遠くにタリンの歴史街が見えます。夜になると約 90km 離れたヘルシンキの街灯も見られます。

モスクワ夏季オリンピックが開催された 1980 年にテレビ塔はオープンしました。エストニアで一番高い建物であり、すぐにタリン子に人気の場所になりました。1991 年ソ連のクーデターの時、ソ連軍の空挺隊はテレビ塔を占拠しようとしたましたが、タリン市民たちはクーデターが終わるまでテレビ塔を守りました。テレビ塔の展望台は火災予防条例に合わないため 2007 年から改装され、2012 年 4 月に再び開かれました。

テレビ塔の下の方には、その建設歴史を語る小さな博物館があります。中には 3D の映画館があり、15 分の映画が見られます。映画の内容は、奥さんに「上にアンテナを調整して！」と言われた旦那が、「家の上」ではなくて「テレビ塔の上」と誤解して、夜中にこっそりテレビ塔の上までたどり着き、さて、奥さんに「アンテナはたくさんあるけど、どれがうちのなの？」と電話で聞くというコメディ映画です。

#### 展望台(170m)の外周を空中散歩

展望台の床には分厚いガラスで作られた透明な部分が

あります。ガラスの上に乗っても破れないのですが、その上に立つと今にも落ちそうな感じがします。展望台の 1 階上 (22 階に当たる) には「テトルン」(Teletorn / エストニア語でテレビ塔) というレストランがあります。窓からの眺めが美しく、料理もおいしいです。エストニアの空の上で食事するというのは面白い経験です。休日の夕方には、音楽の生演奏も流れます。

そして、22 階の窓の外周には、金網で囲まれたスペースがあり、天気の良い日にバルト海の風に吹かれて空中を散歩することができます。それよりもっと刺激的な体験をしたい希望者は、20 ユーロ程の追加料金を払えば、安全ロープを付けて金網の外にあるテレビ塔の縁を歩くことができます。170m の高さから脚をブラブラさせて縁に座することもできます。これは忘れられない経験ですよ。

タリンテレビ塔; [www.teletorn.ee/jpn](http://www.teletorn.ee/jpn) (日本語ページ)



### タリン植物園 (Tallinna botaanika aed)

タリン植物園は、タリンテレビ塔と同じように、ピリタ川近くのクロストリメツァ (修道院の森) 地区にあります。1920 年～1940 年にその辺りにはエストニアの第一大統領のコンスタンティン・パッツの村がありました。植物園は、タリン中心部から 10km ほど離れており、その隣にはエストニアの歴史的な活動家が埋葬されているメツァカリミストゥ墓地があります。

#### 世界中の山地植物コレクション

植物園は、1961 年に科学アカデミー付属研究所として創立され、1995 年にタリン市立植物園に改組されました。園内には、温室コレクションと原生コレクションがあります。原生コレクションには、エストニアやエストニアの自然条件に近い地域の植物が集められています。

1970～73 年にアルピナリウムが作られました。アルピナリウム (Alpinarium) とは、ラテン語の Alpes (アルプス山脈) という言葉に由来しており、「山の植物が育つところ」を意味

しています。春から秋にかけてタリン植物園で一番華やかな色に包まれるところです。ユーラシア大陸をはじめ、北米や南米、ニュージーランド、北アフリカなどの山地の植物種が展示されています。とくに6月の開花は魅力的です。



園内はピクニックに最適

る楓。これらの木の下を散歩するのはとても快適です。

10 年ほど前に、ヤシの家の前に花壇が作られました。最初は夏の花だけが植えられていましたが、最近は多年生植物で、一年中美しく見られます。とくに 5 月のチューリップは夏の花の先駆けで人気があります。

温室コレクションでは、エストニアにはない熱帯・亜熱帯の植物が育っています。その中には日本の植物も展示されています。



花に囲まれて

お薦めは、タリン植物園でのピクニックです。植物園から許可を得て(料金 24 ユーロ)、花の叢のそばにマットを敷いて、家族や友達とともに食事をすることができます。

営業時間: 原生コレクション 毎日 11 時～20 時

温室コレクション 4 月末～9 月末 11 時～18 時

10 月～4 月末 11 時～16 時

入場料: 3.50 ユーロ

植物園までは、中心部の Viru Keskus よりバス 34A 番、38 番で行けます。バス停はクロストリメツァ (Kloostri metsa) (20 分程度)。

自転車でも市内から植物園まで行けませんが、植物園の中では自転車に乗ることができません。

もうひとつ、17 ヘクタールの樹木園も魅力的です。エストニアで一番大きな樹木コレクションです。松や梅などの針葉樹、夏になると実をいっぱいつける林檎、ナナカマドの木、秋になると葉っぱが真っ赤になる

今年の夏も、一般財団法人言語交流研究所・ヒッポファミリークラブのホームステイ交流団 (3 グループ、約 110 名) がウラジオストク、ハバロフスクを訪れました。JIC がヒッポのロシア・ホームステイ交流のお手伝いを始めてから 20 年以上がたちます。

ヒッポファミリークラブは多言語を同時に学ぶというユニークな活動を行っている団体ですが、今回は、ヒッポの国際交流を推進しておられる上斗米正子さんに、ソ連・ロシア交流のなれそめから、過去、現在、未来を書いていただきました。(編集部)

## ヒッポファミリークラブのロシア交流物語

### 私たちのロシア

# ナホトカ～サンクトペテルブルグ、そして未来へ

上斗米 正子

いつの時代も、私たちを魅了してやまないロシア！家族や仲間ですらいろいろなことばが聞こえる環境をつくりながら、多言語で交流しようというヒッポファミリークラブのメンバーたちがロシアやロシア語に憧れ始めたのは 1989 年頃のことだった。

### ◆1990年 9 月 ソビエト連邦・ナホトカへ初飛行

ロシアに渡航することもロシアの人々に会うことも難しい時代、晴海埠頭にソビエト船が停泊して交流するらしいことを聞きつけて「ロシア船」交流がブームになり、早速私も晴海埠頭を目指した。タラップを上って船内に潜入するとそこはロシア。ボールルームにバリショイのロシアおじさま・おばさまが待機していて緊張が走る・・・おまけにヒッポでもロシア語はまだ始まっておらずロシア語ゼロの



ソビエト船交流で(筆者右)

時代なので、会話といっても身振り手振りのみ・・・しかし楽団演奏が始まると一転して、ロシア人も日本人も激しく歌ったり踊ったり、ウオッカで乾杯！オーチンハラッショ～

その船でご挨拶をされたナホトカの市長さん(と思われる方)の名前を教えてください、その年の暮れに「船で出逢っ



た皆さまに会いたいです！ホームステイのチャンスをご指導ください」と封筒に「セルゲイさま、ナホトカ市長、ナホトカ、USSR」と書いて祈りながら投函した。手紙は奇跡的に届いたようで返事が来た。私たちが市長さんと呼んでいた方は実は市長ではなかったのだが、想いをつないでいただいて、1990年9月に私とトラカレ(トランスナショナル カレッジ オブ レックス;ヒッポの大学)生4名が、ヒッポファミリークラブからパイオニア交流団として極東の地に飛立った。

#### ◆マーマチカにどこでもくっついて..

新潟空港から2時間のヨーロッパのような..だが、停電、断水、マーケットにあるのは棚だけ、夕方には食糧の配給に列ができる..当時のロシアの生活はすべてが灰色にくすんで見えた。ナホトカのホスト家族はマーマチカ、パーパチカ、マリンキシストラ(妹)とボリショイサバーカ(犬)。全くわからないことばの海に飛び込んでみたい..が初ロシアに行きたい理由のひとつでもあったが、家族のロシア語の波に漂っているのが



マーマチカ・ヴァーリヤさん、妹・カーチャさん

何とも幸せ..野生の勘を働かせ、犬のようにマーマチカにくっついて行動しながら「ダバーイ」「スパッツ〜」「パッシュリ〜ン〜」など、聞こえる..わかる..ホストファミリーや友だちのことばの嵐のなかで、自分で見つけて、真似してロシア語風に言ってみて、通じたときは飛び上がるほど嬉しい..。3-4日のホームステイは熱を帯びて終わった。ソビエトでは、民間の『国際交流』ということばさえ存在していなかったかもしれないし、私はロシア語を全く話せてはいなかっただろうに、会う人毎にホームステイをお願いしながら、ロシアの人々の底抜けの明るさ、優雅さ、大地のような強さを全身にいただいて帰国の途についたのだった。

#### ◆ロシア〜ヒッポホームステイ交流始まる

ロシア船交流やナホトカ行きのご縁により、JIC の伏田昌義さんに巡り会った。「ロシア人と日本人が本当の家族になるホームステイ交流を始めましょう！」と意気投合して、1991年より相互の家族交流(赤ちゃんからシニア年代)が、94年には青少年交流(小学5年生から大学生年代)が始まった。船で行く交流が台風に見舞われたり、来日したロシア人たちが一斉に中古車買いに走ったり、ホストファミリーは大混

乱。東日本大震災のあと、来日交流は延期されたが、被災地のヒッポファミリーを励ましたいと、大量のチェブラーシカ・



チョコレート・キャンディが、極東ロシアを代表してクリコフ・アナトーリーさんから送られてきた。ロシアの皆さんやチェブラーシカにどんなに元気をいただいたか、今でも忘れない。

今年春には、ウラジオストク、ウスリースク、ハバロフスクから約150人の青少年・家族が来日し、夏には、ヒッポファミリークラブの青少年たちとグループリーダー74人がウラジオストク、ウスリースク、コムソムリシク・ナ・アムーレ、ハバロフスクへ。家族交流は20家族35名がウラジオストク、ハバロフスクで家族の一員になって交流させていただいた。この20余年の間、約3000人が日本から極東ロシアやイルクーツク、ノボシビルスクへホームステイに出かけ、約1200人のロシア家族・青少年がヒッポファミリー家庭にやってきた。

#### ◆家族の一員になるホームステイ

小野寺科奈絵さん(吉川市・ヒッポファミリークラブフェロウ)はイギリスやニュージーランドで留学したり外国が好きで人との触れあいの機会を求めて、独身時代にヒッポファミリークラブに入会、結婚して「子育ては多言語で！でしょう〜」



と地域のヒッポやホームステイ受け入れを楽しんでいる。ベトナム・スリランカ・マレーシア・シリア・コソボ・ホンジュラスなど国や行政などの海外研修生が家庭にやってきて、一緒にスーパーに行ったり料理をしたり。2012年の秋に初めてハバロフスクからロシア母子を1週間受け入れた。翌年3月に同じくハバロフスクからお父さんユーラとイゴールくん(9歳)を受け入れた。今度はぜひ私たちのロシアに来てくださいとお誘いを受け、こどもたちとロシア交流参加を決意。小野寺さんは、史登くん(7歳)、陽菜ちゃん(4歳)とヒッポの交流メンバー仲間と、親戚に会いに行くように出かけた。イゴールくんや初めて会うお姉ちゃんにも自分から遊んだり、再会したパーパチカにこども2人で肩もみしたり。ホストファミリーはもちろん、ヒッポで来日した沢山の皆さんともハバロフスクで交流





### ハバロフスクに家族ができたよ～小野寺さん親子

した。ロシアの皆さんは日本で出会った人の名前をよく覚えていて、日本での出会いを実に大切にしている。交流は家族と家族、友だちと友だちが繋がっていく～小野寺さんはそのことが感動だった。



### ウスリースクホームステイの自由研究・三浦智美さん(小6、横浜市)

小学生 5 年生からの青少年ホームステイ交流は、韓国、台湾にあわせて、毎年ロシアも大人気、楽しいことだけ



### ハバロフスクでホストファミリーとご対面！

ではなく、ホームシックやカルチャーショックを一人一人そしてみんなで乗り越え、笑顔になっていく。

極東ロシアは近くて、実に近い国、ロシアの家庭の扉を開けていただいて、みんなが食べているものを一緒にいた

だき、兄弟とあそび、家の手伝いもし、生活をしながら、ロシア語は家族が話すことばになる。

たった 5 人のパイオニアから始まったホームステイ交流は、相互に参加した青少年たち、家族たちの感動がことばになって、23 年途絶えることなくリレーされている。お互いの国に本当の家族や親戚が住んでいるようになった。



### ホームステイをやりとげて、ハバロフスク空港にて

### ◆2013 年春サントペテルブルグで

昨年の夏、大野利可さん(しの笛演奏家、川越市;ヒッポ)から「サントペテルブルグ・春のジャパンフェスティバル、しの笛公演に参加しませんか?」とお誘いを受ける。サントペテルブルグ・オペラやバレエ、芸術の都、ドストエフスキーの世界・それにもまして、23 年前にナホトカで出逢った私のホストファミリーが住んでいる! 消息を手繰り寄せてメールを出してみると「マリンシャ!! サントペテルブルグで待っています」と返事がきた。ママーチカ、パパーチカは健在、当時中学生のカーチャは結婚して近くに住んでいるという。マリンシャはママーチカが私にくれたロシアの名前だ。彼らとの再会を願い、憧れの都サントペテルブルグへ「しの笛」公演メンバーとして参加させていただくことを決意。主人と私はしの笛の練習を開始した。

3 月 26 日深夜、ペテルブルグ・プーシキン空港、ナホトカのママーチカ・ヴァーリャシュネデールさんに再会、ネヴァ河もバルト海も凍る幻想的な街を通りぬけ彼らのアパートに到着し 2 泊させていただく。23 年間止まっていた時計が今動きだしたように、ことばがあふれ出した。

### ◆サントペテルブルグ・春のジャパンフェスティバル しの笛公演

しの笛グループと合流して、ジャパンフェスティバルが開幕した。ムソルグスキー音楽学校では学生たちと、サントペテルブルグ国立図書館では、バラライカ楽団・アンサンブルスコモロフと、2 回のジョイントコンサートを実現。初のしの笛公演を、芸術や日本を愛する沢山の皆さんが熱い拍手でお迎えくださった。大野利可さん独奏「春のゆくへ」の調べで、主人・小出治史と私が舞踏・舞を踊る機会に恵まれたのは、ペテルブルグの幻惑に誘われたためかもしれない。





大野利可さん作曲・演奏「春のゆくへ」

サンクトペテルブルグ露日友好協会の歓迎レセプションでは、日本を愛する若い学生さん、文化人、芸術家の皆さんと、ネヴァ河の氷が解け始めるほど熱い交流の時を過ごさせていただいた。「日本からきてくださったしの笛の音が、ペテルブルグに春を運んでくださった」とおことばをいただき、胸も熱くなった。

#### ◆サンクトペテルブルグにヒッポの橋が架かる・・

この交流で出会った露日友好協会の一員であるダンシーナ・ソフィアさんからある日、来日を知らせるメールをいただいた。10月22日～24日、言語交流研究所でのしる笛隊&ヒッポ本部歓迎会、横浜なみなみファミリー、千葉西グループのヒッポでお迎えした。



ソフィアさんと横浜なみなみファミリー

「来春にはサンクトペテルブルグの中学・高校生をヒッポホームステイに送りたいです。またその秋のジャパンフェスティバルには、どうぞヒッポの皆さんが来てください・・そしてサンクトペテルブルグでもヒッポファミリークラブを始めましょう・・ことばを尊敬して、世界が繋がって家族になる本当に大切な活動です」と。しの笛公演から、サンクトペテルブルグに橋が架かる。出会いがことばになって、皆さんの想いがこ

とばになって、サンクトペテルブルグでも交流、そしてヒッポファミリークラブが生まれていくにちがいない・・創ろう！

#### ◆ことばが未来をひらく！

今回、マーマチカ・ヴァーリヤさんが言った。「23年前、マリンシャがナホトカにやってきて、それから私やカーチャ、そして沢山のロシア人が日本に行きました。ヒッポは私たちに人間の暮らし、世界の大きさ、そして限りない未来をくれました！」と。ソビエト時代に、彼女がどんな想いで私を迎え入れ、「ホームステイを始めよう」という私たちの願いに全力で向かい、ヒッポとの交流を開始し創り続けてくださっていたのか、改めてその決意に触れた。



ロシア初ホームステイ家族と再会

極東のナホトカから極西のペテルブルグへ・・ロシアの大地6600kmを越えて、私たちの時計は止まることなく共に時を刻んでいたのだった。マーマチカ、カーチャと、そして、今回サンクトペテルブルグで出逢ったソフィアさんはじめ素敵なロシアの皆さんと、これから未来に！

ヒッポファミリークラブのロシア交流を絶えず支えてくださったJICの伏田昌義さま、スタッフの皆さま、いつもご支援ありがとうございます。これからもヒッポファミリークラブの新しい冒険をぜひ一緒によろしく願いいたします！

グロムヌイスパッシーバ！

(一般財団法人 言語交流研究所・ヒッポファミリークラブ、参事)

\* \* \*

一般財団法人言語交流研究所・ヒッポファミリークラブは、「ことばと人間」をテーマに、多言語の自然習得と多国間交流を実践しています。家族や地域の皆さんといろいろなことばが聞こえる環境をつくりながら、どんな人・どんなことばにも壁をつくらぬ国際交流を推進しています。

1981 年に民間団体として設立され、2013 年に一般財団法人として発足しました。

⇒ <http://www.lexhippo.gr.jp/>

## 《モスクワ通信》

# “スパスカヤ塔フェスティバル” 軍楽隊のパレード



モスクワの赤の広場で、2006 年から毎年 9 月上旬に「スパスカヤ塔フェスティバル」という国際軍楽フェスティバルが行われています。ロシアではユニークな軍楽隊パレードだと思います。

今年のフェスティバルには 10 カ国以上の軍楽隊、儀仗兵、民族舞踊団が参加しました。NATO はイギリスのバグパイプ演奏者、オランダの軍楽隊、スロベニアとフランスの楽隊を送りました。東アジアからは韓国の軍楽隊と中国の嵩山少林寺の武術家が参加しました。そして、今年は日本からも初めて和太鼓のグループが参加しました。アラブ世界からはアブダビの警察楽隊が来ました。少し堅苦しくて退屈と思われがちなスイスの楽隊が観客に音楽のサプライズで感動を与えました。樽を叩き、「Bolgarka」という電動サンダーを使って演奏したのです。これらの演奏は You Tube に投稿されました。

ロシアのスヴォーロフ軍事学校の学生たちは、自分たちの演奏をソチ・オリンピックの成功に捧げました。有名なフランスの歌手、ミレイユ・マチューも、スパスカヤ塔フェスティバルに参加し、ロシアとフランスのオーケストラの伴奏で歌を三か国語(フランス語、ドイツ語、ロシア語)で歌いました。

今年 9 月のモスクワはとても寒くて雨が多かったのですが、天候不順にもかかわらず、ロシア新聞の報道によると、7 万人もの人がフェスティバルを見に行きました。入場料は 2500~3000RUB でした。少し高いですが、本当に面白かったです。フェスティバルは来年も 9 月上旬に行われます。皆さん、来年秋にモスクワにお越しの際は、是非、赤の広場で軍楽パレードを楽しんでみてください。(JIC モスクワ事務所、イリーナ)



## 第 4 回アルマティ国際芸術バレエコンクール ~日本予選~

『「あなたの未来が広がるファーストステップ」として、早期に国際舞台を体験できる機会を設け、世界へ羽ばたく芸術家を輩出させたい。』

そのために、従来のものとは違う教育型コンクールを、カザフスタン・アルマティ・バレエ学校からの協力依頼を受け開催致します。

日本予選として開催されるこのコンクールでは、各部門 10 名の方にカザフスタンのアルマティ市で行われる本選への出場枠が与えられます。

本選は日本の春休み期間中(2014. 03. 26~04. 01)に行われます。また、新たに日本予選でのスカラシップ賞を頂くことになりました。

### § 参加要項 §

**開催期日** 一次予選・二次予選・表彰式

**2014 年 1 月 4 日 (土) 審査開始 10:30**

ワークショップ

**2014 年 1 月 3 日 (金)・5 日 (日)**

**会 場** 栃木県宇都宮市文化会館小ホール (間口 12m×奥行 10m)  
宇都宮市明保野町 7-66 TEL: 028-636-2121

**部 門** ジュニアⅠ (11才~13才)  
一次予選・二次予選共に同曲の 1 曲 本選 2 曲  
ジュニアⅡ (14才~16才)  
一次予選 1 曲・二次予選 1 曲の 2 曲 本選 3 曲  
ジュニアⅢ (17才~20才)  
一次予選 1 曲・二次予選 1 曲の 2 曲 本選 4 曲

※年齢は 2014 年 3 月 30 日現在

※バレエ学校卒業生、ダンサーの方は参加不可。

**参加規定** クラシックバレエからヴァリエーション。  
バランシンでの参加は出来ません。  
1 曲 3 分以内とする。

**参 加 費** MD1 枚に 1 曲ずつ録音 (SP 録音のみ再生可)  
一次予選 25,000 二次予選 10,000 円  
※二次予選参加費は当日お支払いいただきます。

**応募締切** **2013 年 12 月 17 日 (火)**  
※定員になり次第締切らせていただきます。

### § お問い合わせ §

アーティスト・ホーム・ヴィレッジ  
国際芸術バレエコンクール事務局

☎321-0237 栃木県下都賀郡壬生町下稲葉 716

Tel 0282-82-0025 Fax 0282-82-6681

<http://www11.plala.or.jp/ahv>





## キーロフ十字架行進 【その5】

## 蚊の大群、大地を削る雨

伏田 昌義

## 巡礼と観光

ベリカヤ川の畔からもどり夕食をすませた後も、しばし「巡礼の観光化」について頭の中で反芻した。

キーロフ行進も、数万人もの人が毎年歩くようになると、せいぜい数百人程度で歩いていたころの純粋な信仰活動としての巡礼とは違ったものにならざるを得ないだろう。参加者の数が増えれば増えるほど、「お祭り」的な要素が入り込み、観光化されていくのは必至だ。参加者の安全を守るための道路整備や交通規制、医療・安全対策などの充実は、より多くの人々の参加を容易にし、さらに観光化を促進するに違いない。

もちろん、この過酷な行進に参加するには、それなりの信仰的動機が必要だとは思う。しかし、行進の規模が拡大するにつれ、必ずしも信仰目的ではない人々が、軽い気持ちで参加してくるようになるのは避けられない(現に今回も、行進初日だけ参加した人が1万人近くいたようだ)。そして、そのようにして規模が拡大していくことは、信仰の裾野を広げるという意味で、ロシア正教会にとって必ずしも悪いことではない。行進の規模拡大と観光化は、このキーロフ市周辺の住人にとっても地域の活性化を促す機会となるだろう。

もともと「巡礼」と「観光」は親和性の高い概念だ。日本の伊勢参拝や西国三十三カ所巡りの歴史を見てもわかるように、巡礼に参加する個人の中にも巡礼的要素と観光的要素が共存している。お伊勢参りが大衆化した江戸時代には、すでに旅の目的は『伊勢参拝』であると同時に『物見遊山』になっていた。一度、このような巡礼が生れると、それを受け入れる側も「聖地」としての重要性を強調し、巡礼を継続させるための演出をさまざまに凝らすようになる。前近代の観光開発はいわば「巡礼」の形をかりて発展し、今日にまでつながっていると言える。その意味でも、観光化は自然の流れだ。しかし、問題はその程度だ。

世界文化遺産に登録された合掌造りの白川郷が、大挙押し寄せる観光客のマナー違反(ゴミの放置や民家への勝手な立ち入りなど)に一時手を焼き、地域内の交通規制やマナー徹底に取り組んできたことはよく知られている。日本ではそれほどではないが、発展途上国の場合、登録された文化遺産が、極端な観光開発(土産物店やレストラン、宿泊施

設の乱造)によって破壊されたり、文化遺産の一部をなす固有の生活文化が失われたり、さらには観光客を意識したパフォーマンス的な宗教儀式や祭礼が新たに創出されて「文化変容」が起こったりといった事例が多く報告されている。旅行業を含む観光業は、文化交流を下支えして人々の生活を豊かにし、地域経済の活性化に寄与するものではあるが、他方ではそのような「文化破壊」にも手を貸してきたわけで、その二面性は常に心しておかなければならないと思う。巡礼においても、観光化が進み、便利になりすぎると、その信仰的意味が薄まっていく恐れは十分にある。

キーロフ行進は、まだ復活してから日も浅い。年に一度のイベントなので、それほど急激に観光化するとは思えないが、しかし、10年、20年の単位で見た時には、将来、かなりの変化を遂げているかもしれない。そんなことを考えながら眠りについた。



再び荷造り、道中の食糧を分け持つ。

## 5日目 6月7日 ベリカロツコエ村からムリギノ村へ

午前1時半に起床した。前半は先頭集団から大きく離れて後方を歩いたが、後半はもう少し前の方を歩こうというジーマ氏の方針で早起きする。前夜、眠りについたのは21:30。睡眠時間は4時間。さすがに外はまだ暗い。前日の好天気とは打って変わって空はどんよりと暗く、時々小雨がばらつく天気だ。行程表によれば今日の歩行距離は38km。今日もきびしい1日になりそうだ。

## 蚊の大群の中で眠る

午前02:00に先頭集団の出発を教会の前で見送り、02:30頃から歩き始める。1時間弱歩いて最初の休憩をとる。睡眠不足だからまだまだ眠い。道端の草原に荷物を降ろし横になって眠ろうとしたら、セルゲイ氏が何やら黒い輪っかの切れ端のようなものを手渡してくれた。端っこから白い煙が出ている。蚊取り線香だ。緑と黒、色が違うだけで日本のものとはほとんど変わらない渦巻型の蚊取り線香にロシアでお目にかかるとは思ひもしなかった。しかも、火がついている。

「なんで？」と言いかけて気がついた。さっきから小型の水すましのような虫が顔の周りをブンブンと飛び回っている。「虫が多いな」くらいに思って気がつかなかったのだが、よく見るとこれが蚊の群れだ。日本の蚊よりも 3 倍は大きい。こんなのに血を吸われたら、また貧血を起こしそうだ。慌てて虫よけスプレーを顔や首筋に振りかけ、帽子をしっかりとぶり、手袋をはいて、肌の露出部を最小限にして横になる。顔の周りを蚊取り線香の煙で燻しながら休憩しているうちに、あっという間に眠ってしまった。人間、睡眠不足に陥ると、少々蚊くらい平気で眠れるものらしい。

30 分くらい休憩して 04:00 に出発。約 1 時間半歩いて、前々日ベリカロツコエ村に到着する前に休んだのと同じ場所で再び休憩する。ベリカロツコエ村からここまでは同じ道を引き返し、この先から道が別の方向に分かれるらしい。1 時間半ほど休んで、次は 2 時間歩いた。

3 回目の休憩地で朝食をとる。ここでは 2 時間半の休憩時間がある。湯を沸かし、インスタントのカーシャ(粥)やヌードル(麺)を作る。昨日の川畔の昼食の残り物のブリヌイやキュウリ、トマトを頬張る。小雨が降ってきたが、雨の中で食事をするのにもう慣れた。人間は環境に順応する動物だ。

### 激しい雨が地面を削る

「朝食休憩」の後 11:30 に出発。ここから森の中の道が 10km ほど続く。前半の 2 日目に通った森の道よりも、こちらの方がずっとひどい道だと聞いていたが、それほどでもない。昨日の晴天がさいたのだろうか、道がかなり乾いていて、水たまりや泥濘が少ない。長靴に履き替えることなく、シューズで歩き切った。

リュドミラさんによれば、5 年前にこの道を歩いた時は、腰までつかる沼のような泥濘が道を阻み、通り抜けるのにとっても難渋したそうだ。昨日、ベリカロツコエ村でもらったキーロフ行進の写真集にも、

#### 森の道にさしかかる

水たまりを大きく迂回して歩く人の列や、泥濘に足をとられながら歩く人の写真がたくさん載っていた。

この日、森の中の道よりも大変だったのは雨だった。2 時間ほどかかって森の道を抜け、1 回の休憩をはさんで、中継地のメジャーニ村をめざしている途中で、朝から降っては止みしていた小雨が激しい雨に変わった。バラバラと大粒の

雨が降り出したので、急いで雨支度をして再び歩き始めた時、ジーマ氏が「メジャーニ村では毎年きまって雨に見舞われるのだ」と話している最中に雨脚が強くなり、本降りになった。それから村に到着するまでの 1 時間ほど辛い雨中の行軍が続いた。

雨が激しかったのはほんの 30 分程度だが、本格的に降り



#### 雨水が流れたあとには深い溝

の水たまりができています。水浸しになった道を避け、道端の盛土の草の上を歩こうとしたが、そこにもあちこちに大小の溝が刻まれており、ついに靴ごと溝に足を突っ込んでしまった。もうかまっても無駄である。足をグショグショに濡らして歩くしかない。小川状態になった赤土の道を、それでも大きな水たまりを避けつつ、雨に打たれながら黙々と歩き続けた。

それにしても雨水の力はすごいものだ。道の両側に広がる平原の緩やかな斜面に、畑の畝のような溝が幾筋も刻まれているのは、雨で地面が削られた跡だったのだ。これではせっかく道を整備しても、雨が降るたびにデコボコになり、地形まで変わってしまう。水たまりに倒木を置いたり、小川に急ごしらえで丸太を数本渡しただけの橋がかかっていたりするのもうなずける。ロシアの荒々しい自然の前では、中途半端な人工物はすぐダメになってしまうのだろう。

「腰までつかる沼のような泥濘」というリュドミラさんの説明はちょっと想像しにくかったのだが、こんな雨が 2~3 日も断続的に降れば、そういうこともあるだろうと納得できる。今頃は森の中の道もひどいことになっているのかもしれない。

### メジャーニ村からムリギノ村へ

メジャーニ村に到着したのは午後 16:00 過ぎだった。ようやく雨がこぼりになった。崩れかけた煉瓦造りの教会跡とその周辺が休憩地になっている。先に着いた人たちがあちこちにうずくまっており、休憩スペースがなかなか見つからない。ウロウロした揚句、入口近くにもどって、ようやく小さな場所を確保した。この村は新鮮な牛乳と白いパンが名物なのだという。ジーマ氏とセルゲイ氏が交代々々とパンやピロシキ、牛乳を買ってきて、みんなに配ってくれる。これが今日の昼

出して 10 分もすると道に水が溢れ出し、ちょっとした川のようになった。坂道では流れ落ちる水で赤土が削られ、深い溝が刻まれており、坂道の下には、大きな赤茶色





メジャーニ村の教会跡

大きな水たまりを避けて休憩する



疲れた！おやすみ

ときに休んでおかなければ体がもたない。

17:00 に十字架を掲げた先頭集団が出発して間もなく、私たちもメジャーニ村を出発した。その日の宿营地、ムリギノ村に着いたのは 19:00 過ぎ。ベリカロツコエ村を出発してから約 16 時間半後のことだった(歩行時間は 9 時間半)。

ムリギノは、村の名前がついているとはいえ、大きな煙突の工場や 4~5 階建てのアパートが立ち並ぶ、ちょっとした町だった。キーロフ市内まで約 30km、通りに並ぶ民家もどことなく垢ぬけて見える。

きれいに整った庭のある家の前で、ジーマ氏の友人のリュドミラさんがにこやかに出迎えてくれた。リュドミラさんは元歌手で、現在はショーの司会者などをやっているという。スラリとした体形、年齢は 30 代にも、40 代にも、50 代にも見える。年齢不詳の美人。荷物置場や手足を洗う場所、水道の使い方などをてきぱきと説明すると、さっと身を翻して家の中に入ってしまった。

雨の中をずっと歩いてきたので、足元は泥だらけ、靴の中はグジュグジュ。庭先で靴を脱ぎ、教えてもらった水道にホースつないで手足を洗い、靴と雨合羽についた泥を落とす。亀の子タワシのような便利なものはここにはない。それにしてもタワシは一体、誰が発明したのだろう。普段は気に

食だ。降りやまぬ雨の中で、立ったままパンを頬張る。リンゴ入りのピロシキが甘くておいしい。疲れ切ったイリヤ君とニキータ君が、合羽を着たまま草の上に座り込んで、リュックにもたれてウトウトしはじめた。まだあと 10km 近く歩かなければならない。雨が降っていようと、どこであろうと、休める

も留めないが、少々傷ついてもいいものを水で洗うのにはとてもよくできた小道具だ。「ああいうものを思いつくのはきっと日本人にちがいない」などと、どうでもいいことを考えながら、軍手をはいた手に水をかけて泥をこすり落とした。

## 久しぶりのおいしい夕食

家に入ると先客がいた。ジーマ氏の友人のアンドレイ氏、ロマン氏とその子どもたちだ。アンドレイ氏はジーマ氏が経営するレストランの料理長。二人の息子とともに行進に参加している。ロマン氏はジーマ氏の幼なじみ、10 歳くらいの娘を連れている。途中の休憩地で何度か顔を合わせたのすでに顔なじみだ。今夜は、私たちと彼らを合わせて計 15 名がリュドミラさんの家に泊めてもらうことになっている。

親子でこの行進を一緒に歩く体験が共有できるとは、考えてみれば羨ましい限りだ。私にも二人の娘がいるが、彼女たちが小さな頃、私は子どもたちと一緒にこのような共通の体験をもったことがあるだろうか。



アンドレイ氏(左)とロマン氏(中央)、子どもたち

ジーマ氏とアンドレイ氏の計らいで、アンドレイ氏の部下が作ってくれた本格的な料理が、キーロフのレストランから運ばれてきていた。子どもたちは別室で食事をさせて、大人だけの夕食会が始まる。まずはウォッカで乾杯。小さなグラスにウォッカをついで、ジーマ氏がさっそく音頭をとる。ここまで無事に歩いて来られたことに感謝し、明日の最終日、キーロフの聖トリフォン修道院までたどりつけるように祈り、杯を高く掲げて一気に飲み干す。胸を熱く焼く液体が流れ落ちて胃袋をびっくりさせる。

食卓には、トマト、キュウリ、ラディッシュなど色とりどりの野菜と、サラミやチーズといった前菜が並んでいる。スープはボルシチだ。マッシュポテトを添えたカツレツがメインで、アイスクリームのデザートまでついていた。おいしい。久しぶりの本格的なロシア料理に、胃袋が喜ぶ。

キーロフ行進も明日が最終日。ジーマ氏のおかげで英気を養い、早々に眠りについた。(つづく)

## 11~1月の予定

12 月 14 日 JIC ロシア語留学相談会(東京、大阪)  
午後 13:00 より \* 要予約  
12 月 28 日~1 月 5 日 年末年始休業  
2014 年 1 月 17 日 長期留学 4 月出発生申し込み締め切り  
1 月 24 日 JIC 春のロシア語研修旅行申込み締め切り

最新情報は JIC のホームページに随時掲載いたします。  
ぜひご確認ください!!!

### ◆◆編集後記◆◆

▼今年も時間は駆け足で走り去り、早くも年末の声を聞くようになりました。皆さん、今年はいい年でしたか? 時の流れが速いのは、仕事と生活が充実しているからだとか聞き直って、来年もよい年になるよう、頑張りましょう! ▼11 月号の発行が大変遅れたことをお詫びします。この点では、時間に追いかけるのではなく、時間を追いかけるようになりたいと思います。反省!(伏田)

## \* \* JIC のロシア語留学・研修 \* \*

### ロシア語長期留学 4 月生・募集中 ロシア語グループ & 個人研修 (随時募集)

期間: 2014 年 4 月より 10 ヶ月

締切: 2014 年 1 月 17 日(金)



予価です

モスクワ国立大学 733,700 円(授業料 10 ヶ月)

サンクト・ペテルブルグ国立大学 676,200 円(授業料 10 ヶ月)

ウラジオストク極東連邦大学 391,000 円 (授業料 10 ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などがかかります。

リデン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校

個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグにあり、インターナショナルな雰囲気。初心者より上級者まで。2 週間より可能。基本はホームステイ 2 食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



デルジャーヴィン・インスティテュート

全ロシアプーシキン博物館の協力によりペテルブルグに設立された学校で、18 世紀の建物内で授業が行われます。アットホームな雰囲気でお勧めです。グループレッスン、1 週間より可能。基本はホームステイ 2 食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



### ロシア語個人研修 (随時募集)

- ☆モスクワ・ダリパス社 1 週間~4 週間 (ホームステイ 3 食付)
- ☆モスクワ大学 2 週間~長期 (ホームステイ朝食付/大学寮)
- ☆ペテルブルグ大学 1 ヶ月~長期 (ホームステイ 2 食付き)
- ☆ウラジオストク経済サービス大学 1 週間~4 週間(ホームステイ 2 食付き)
- ☆ハバロフスク外国語教育センター GEO(ホームステイ 2 食付)

#### ◆JIC ロシア留学デスク◆

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。

お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 10-18 時 03-3355-7294/7295

大阪デスク 平日 10-15 時 06-6944-2341

※事前にご予約ください

留学・研修各種パンフレットは JIC へ  
ご請求ください。留学・旅行相談お気軽に

## ~Jクラブ (JIC 友の会) のご案内~

JIC インフォメーションを年 4 回、また JIC のイベント案内をもれなくお届けします。  
ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。会費は無料です。  
国際親善交流センター

